

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2022年12月6日放送分・堤町／奥州街道】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 去年、芭蕉の辻から始まった「奥州街道を北へ！」シリーズも、いよいよ今回で完結です。北仙台駅の西側、仙山線の踏切を越えて梅田川を渡る手前に、今月の辻標「堤町／奥州街道」があります。この辺には江戸時代、川を半分堰き止めた農業用のため池＝堤があり、地名の由来となりました。ちなみに梅田川の「梅田」は、水のある場所を「埋めた」から来ているようで、大阪の中心部・梅田も海岸線を埋め立てた事に由来する地名だそうです。ビックリ！
- また、この地域は良質な粘土が取れたため古墳時代から窯業が盛んで、江戸時代には侍が内職で作っていた焼き物から、伝統工芸の堤焼が生まれました。江戸から技術指導に来て、この地に骨を埋めた上村(かみむら)万右衛門という人の墓が、日浄寺に残されています。

- 峠を登り、現在の県道仙台－泉線にぶつかる手前が、かつての仙台城下と七北田村の境。旅人の荷物から税を取る「御仲下改所(おすあいどころ)」と呼ばれる施設の場所が特定されています。
- これで芭蕉の辻から始まった「奥州街道を北へ！」シリーズはめでたく(?)完結です。2023年からは新シリーズがスタートします！来年も「城下町ボヤージュ」にご期待ください。

